

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2016年7月16日）

－ 十六日市でのコミュニティ茶屋、プレイパーク、棒パンづくり、草刈り －

本日の活動は、野田村で16日に開かれる十六日市への参加です。この市に弘前大学ボランティアセンターのテントを設置し、地元の皆さんにお茶を振る舞い、棒パンを作り、遊具で子供達と遊びます。また、野田村各所で草刈りを行います。

朝6時、いつもより早い時間に事務局員、学生が学生会館前に集合し、荷物の積み出しを行いました。天気は快晴、すがすがしい朝です。今回は荷物が多かったのですが、4人の事務局員と学生達が手際よく荷物を台車でバスに運びます。平野先生も合流し、予定通り6時15分に弘前大学を出発しました。

本日の参加者は、市民の方12名、引率教員2名、学生10名です。事務局員の平井さんが司会となり、今日の内容説明。到着後はテント受け取り、設営、カフェ、プレイパーク、棒パン生地作り、草刈り等に別れての作業。希望を聴取し、班分けを行います。各班の中心担当者を決めて、一日の注意を行いました。

7時10分 花輪サービスエリアに到着し、20分に出発。ここで、マイクを廻して自己紹介の開始。初参加の学生もいましたが、ほとんどの方が経験者のようでした。

8時7分に道の駅おりつめに到着。バスの前で写真撮影。8時20分におりつめを出発し、9時25分に野田村へ到着しました。早速、各班に分かれて作業開始。私は、既に予約をしてあった食材等を学生2人とスーパーマーケットへ受け取りに向かいます。納品書、領収書とともにすべて準備が整っていました。支払いを済ませた後、お店の前で納品書とともに一つずつ写真撮影。支出の証明の為に必要な作業です。事務局のデジタルカメラは接写が苦手のようなので、学生さんのスマートフォンを使って撮影を行いました。

荷物を会場に運ぶと、既にテントは設営済み。作業が早い。地元の人が続々と集まってきていました。テントの後ろでは遊具に群がる子供達。地元の方々が集まってくれるかが心配だったのですが、全くそんな心配はなさそうです。テントの下にはテーブルとイスが配置され、メニューを首から下げた学生が地元の人から飲み物の注文を受けます。テーブルの一つは、「新人さんコーナー」と呼ばれて、話題の書かれたサイコロが置かれています。今回初めて来て頂く地元の方のための配慮でしたが、すぐに皆打ち解けていて、初めての方に気を遣う必要もないくらいに和気藹々とした雰囲気でした。

テントの後ろの子供達が予想以上に多く、遊具が全く足りない状態。でも、遊具が無くても学生達が居ます。子供達は本当に楽しそうにしていました。

頃合いを見て、竹の棒にアルミホイルを巻き始めます。棒パン作りの準備です。子供の数を見て十分な本数を揃えます。同時に、火おこしも開始。バーベキューコンロに入れた炭に火をつけます。

「ドライイーストが足りない」「打ち粉がない」などのトラブルがあったものの、待望の生地が到着。子供達が竹の竿のアルミホイルに生地を巻き始めます。学生たちと遊具で遊ん

でいた子供達は、棒パンが作れることがわかると、テーブルに群がって夢中で作業を始めました。棒パン作りへの子供達の興味は予想以上に大きく、皆、真剣です。学生や市民の方々の手助けを受けながら、生地を巻き、炭火で炙ります。やがて、続々と棒パンが焼きあがり、用意してあったジャムと一緒に楽しい食事。今回の生地は仕上がりが良く、棒パンも前回よりおいしく出来上がりました。私も、市民の方々や学生の焼いた棒パンをいただいたのですが、予想よりもずっとおいしく、少し驚きました。

棒パンを食べたり、時間を分けて昼食をとったりしているうちに、あっという間に撤収の時間。14時を過ぎたあたりで、テントをたたみ、火の処理を始めます。初めの準備でもそうでしたが、市民の方と学生達の手際が良く、片付けも順調に進みます。野田村社協の車にお借りした荷物を積み込み、撤収作業も終了。朝早くからの活動でしたが、野田村に来てからの時間が早く感じられました。

市での活動が中心だったので、拝見することはできなかったのですが、草刈り班も活動を終えて戻ってきました。しかし、最後まで完璧に仕上げたい草刈り班は熊手を調達して、再度現場へ。社協の方によると、見事な草刈り作業であったそうです。

帰路は、バスで野田村の道の駅あぶるに向かう途中で、海岸方面を通過して頂き、復興事業の様子を見学しました。その後、道の駅おおのを経由します。

再度、マイクを廻して、本日の感想を聞きました。「子供が名前を憶えてくれた」

「弘大生はいつ来るのかと言われた」「棒パンをおいしいと言ってくれた」など、地元の方や子供達に喜んでもらえたことを嬉しく思う学生さんの感想が多かったです。また、棒パン作りについても「生地が良くできていた。量も丁度良い」「生地づくりが大変だった。そばの方が楽だ」との感想がありました。裏方の生地作りが実は重労働だったようです。

一方で反省としては、「生地をこねるのが大変だった。麵台が高くて男性が担当した方が良い」「子供が棒パンを作る作業台の片付けが楽になるように、何か敷くなどの工夫が必要」との指摘がありました。今後の参考にしたいと思います。

今回の活動でリーダーシップを発揮してくれた平井さんは、全ての気力を使い果たしたかのように帰りの車内でずっと熟睡。感想を聞く事すらできませんでしたが、一日を通じて目配り、指示が素晴らしかったです。助かりました。

6時20分に無事に弘前大学へ到着。学生達が荷物を事務局に片付けて活動の終了です。学生達は、事務局で自分たちの日焼けに驚いていました。

十六日市への参加は今回で2度目。バスの中の学生の感想で「子供が『市はこんなに楽しいんだ』と言っていた」という事を聞き、市を少しでも盛り上げたいという活動の趣旨がある程度果たせているとの印象を持ちました。また、「是非、学童保育のある日に来てほしい」とも言われ、野田村からの期待も実感した活動となりました。



観光物産館ばあぷるでの集合写真



お茶を楽しむ地元の方々



棒パン生地作り



遊具で遊ぶ子供達



棒パン作り